

令和 7 年度

「運営に関する計画」

自己評価（最終評価）及び
学校関係者評価報告書

大阪市立瓜破北幼稚園

令和 8 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本園の園児について、明るく元気で、人懐っこい子どもが多く、いろいろなことに関心をもって遊ぼうとする姿が見られる。保護者の方は協力的で、家庭でも大切に育てられている。反面、「自分の気持ちを言葉で表しにくい」「受け身の子どもが多い」「遊びが続きにくい」「転びやすい」「疲れやすい」「基本的な生活習慣の自立については、個人差が大きい」などの実態がある。

【安全・安心な教育の推進】

- 大和川が近い本園の地理的状況を鑑み、大震災に備えて災害や非常時の避難方法を確かめたり保護者と一緒に避難したりして、子どもも保護者も共に防災意識の向上・命の大切さへの一層の意識化を図れるようにする。
- 生活様式が多様化したりコロナ禍で人とのかかわりが希薄になっている中で育ったり、様々な個性のある子ども達の在籍が多くなってきたりしている。それらに対応するためにも、教員の幼児理解や障がいに対する理解の深化を図るなどして、一人一人に丁寧に向き合う教員の育成や「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」の一層の推進を図っていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校以降の教育において未来を切り開く学力や体力を身に付ける基礎を培えるよう「就学前教育カリキュラム」を自園の教育課程に生かして、「知」「徳」「体」をバランスよく育てていきたい。また、小学校との交流・連携を通して互いの教育内容の理解を深め、子ども達が就学に期待をもち学べるよう、小学校教育への円滑な接続に取り組みたい。
- 瓜破北幼稚園の最大の特徴である豊かな自然を生かし「感動体験」を積み重ねたり、季節ならではの自然を生かした活動を工夫したりして、主体的・対話的な深い学びを育てていく。
- 広い園庭を生かし、子どもたちが体の様々な部位を動かし多様な動きが身につくように、体操や遊びを実施し、体力の向上のための取組を積み重ねていく。
- 様々な自然体験に保護者も巻き込みながら「自然の大切さや命の尊さに気付く活動」「野菜や果物を中心とした食に関する指導と健康な体作り」に取り組む。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育の質の向上を支えるための教員の資質の向上を図る。
- コロナ禍で、近年、地域の未就園児に対しての活動の実施では難しい状況にあった。瓜破北幼稚園の良さを感じてもらえるよう、「開かれた幼稚園」を目指し、未就園活動を実施し、多くの方に幼稚園の教育活動を知ってもらうことを強化したい。
- 幼稚園・地域・家庭との連携による様々な取組などを一層推進して、子どもも保護者も様々な人と関わり、刺激を受けたり、優しさを感じたりし、人と関わる楽しさ・充実感・達成感を実感したり、特に保護者は子育ての楽しさなどを味わうことができるよう、計画的に交流・取組を実施していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めていますか」「保護者の方はお子さんと一緒に避難訓練や安全指導などに参加して災害時の行動や安全な生活への意識が高まりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90パーセント以上、85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、幼稚園に通うことを楽しみにしていますか」「色々な友達に親しんだり友達と仲良く遊んだりするようになりましたか」「教職員は子どもたち一人一人に応じた関わりをしていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、80%以上、85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は就学前教育カリキュラムを生かして「知」「徳」「体」をバランスよく育てていますか」「幼稚園は小学校との交流や連携を積極的に行っていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90パーセント以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、自然に親しみや関心をもっていませんか」「お子さんは、自然を生かした遊びや活動の中で、考えたり表現が豊かになったり知識が増えたりしてきましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊ぶようになりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、様々な野菜や果物に興味をもち、今までよりも食べるようになっていませんか」「保護者の方は、幼稚園での自然体験や食育の取組に参加してよかったと思いますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「教員は、環境や教材を工夫し幼児期にふさわしい教育活動を行えていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者、地域の人と親しんだり楽しんだりする交流や取組を行なっていますか」「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携に力を入れていると思いますか」の項目に対して、「そう思う」と答える割合をそれぞれ75%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めていますか」「保護者の方はお子さんと一緒に避難訓練や安全指導などに参加して災害時の行動や安全な生活への意識が高まりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上、85%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、幼稚園に通うことを楽しみにしていますか」「色々な友達に親しんだり友達と仲良く遊んだりするようになりましたか」「教職員は子どもたち一人一人に応じた関わりをしていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は就学前教育カリキュラムを生かして「知」「徳」「体」をバランスよく育んでいますか」「幼稚園は小学校との交流や連携を積極的に行っていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90パーセント以上にする。
- 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、自然に親しみや関心をもっていますか」「お子さんは、自然を生かした遊びや活動の中で、考えたり表現が豊かになったり知識が増えたりしてきましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊ぶようになりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、様々な野菜や果物に興味をもち、今までよりも食べるようになっていきますか」「保護者の方は、幼稚園での自然体験や食育の取組に参加してよかったと思いますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度末の保護者アンケート調査で、「教員は、環境や教材を工夫し幼児期にふさわしい教育活動を行えていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者、地域の人と親しんだり楽しんだりする交流や取組を行なっていますか」「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携に力を入れていると思いますか」の項目に対して、「そう思う」と答える割合をそれぞれ初年度は70パーセント以上、次年度以降は「そう思う」と答える割合を、それぞれ75%以上にする。

3 今年度の自己評価結果の総括

避難訓練においても、体を動かす遊びや自然を生かした遊びにおいても、例年通りではなく、常に子どもたちの様子に合わせ見直しを行い、また活動後には反省会や活動の見直しを行い、保育内容の充実に向けてきた。それが保護者へも伝わり、保育内容に理解をいただくことができ、保護者アンケートの結果の高さ、また、4年間の向上につながっているのではないかと考える。

教員の資質向上として、支援の必要な子どもが多くなっている実態を踏まえ、インクルーシブ教育推進室より講師を招いて学ぶ機会をもったり、アレルギーに関しての園内研修を行い体制を整えたりした。また幼稚園内にいる様々な職種の教職員が互いに講師役を務め、それぞれの立場から見る保育を理解し合うことで、教職員一丸となって保育に努める体制を整えたりした。

みんなで南園庭をつくろう会と連携し、令和5年度には「第34回緑の環境プラン大賞ポケット・ガーデン部門コミュニティ大賞」「学校・園庭ビオトープ賞」、令和6年度には「大阪市環境表彰」を受賞した。今年度は、ビオランドの維持管理や環境整備に努めたところ、「学校・園庭ビオトープ賞優秀賞」「おおさか環境賞大賞」、みんなで南園庭をつくろう会が「おおさか環境賞協働賞」を受賞することができた。

今後も、子どもたちがこの環境の中で感じたり学んだりして成長できるよう、資質向上に努め、本園の特徴を生かした保育内容の充実を図っていきたい。

大阪市立瓜破北幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校の年度目標 ① 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めていますか」「保護者の方はお子さんと一緒に避難訓練や安全指導などに参加して災害時の行動や安全な生活への意識が高まりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上、85%以上にする。 ② 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、幼稚園に通うことを楽しみにしていますか」「色々な友達に親しんだり友達と仲良く遊んだりするようになりましたか」「教職員は子どもたち一人一人に応じた関わりをしていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 防災・減災教育、安全教育の推進】 災害時に備えた避難訓練及び命の大切さを知る教育活動を実施する。 指標 ・避難訓練の実施：年5回 ・教材活用：年5回 ・保護者への情報発信：年8回 ・安全に関する親子での取組：年5回 ・避難訓練実施後の評価・改善：年5回	B
取組内容②【施策2 インクルーシブ教育の推進】 インクルーシブ教育の充実と推進を図り、保護者や関係機関と連携し、子どもの特性を生かした適切な支援を行う。 指標 ・インクルーシブ教育について、教員研修を受ける：年3回 ・個に応じた教材や支援方法を探り、活用する：年5回 ・園内委員会の実施：年6回 ・専門機関や関係機関との連携：年5回	B
中期目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ○「お子さんは、避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めていますか」<u>96%で目標を達成した。</u> ○「保護者の方はお子さんと一緒に避難訓練や安全指導などに参加して災害時の行動や安全な生活への意識が高まりましたか」<u>93%で目標を達成した。</u> ・避難訓練を8回実施した。（4月…ベルの音を知る 5月…火災、保護者引き渡し訓練 6月…火災、消防士の指導を受ける 9月…地震 10月…不審者 11月…大阪880万人訓練地震 1月…地震・引き渡し 2月…不審者） 4月は新入園児に配慮し、避難訓練の意味や非常時のベルの音を知ることから始め、11月からは訓練があることを知らせずに行い、実際の被災時を想定して避難するなど、	

年間を通して発達段階に合わせ、内容を工夫しながら経験を重ねていけるようにした。

11月、大阪880万人訓練に合わせた訓練では、3、4歳児は幼稚園で、5歳児は園外保育先の地下鉄の駅で、いつもと違うベルや放送、スマートフォンの音などを敏感に感じ、静かにしたり、教師の指示を聞いて避難したりすることができた。1月には地震の引き渡し訓練を行い、園庭避難から津波を想定し、小学校まで避難をした。保護者も被災時を想定して訓練できるよう、どこへ避難しているかは事前に伝えず、配信で確認して避難場所まで迎えに来てもらうようにした。引き渡し後はミッションカード（通園路で気を付けることや避難の仕方などを確認できるもの）を用意しておき、親子で再確認しながら災害時の動きを一緒に考える機会をもった。

・視覚教材を8回（各訓練時）行った。

発達段階や想定内容に合わせ、指導方法を工夫している。主に視覚教材を活用することで、避難の仕方や約束が子どもたちに伝わりやすいようにしている。下記に一例を挙げる。
3歳…イラストを見せて火災ではどういうことが起こるのかを知らせ、避難訓練を行う意味が分かるよう知らせた。

4歳…「おはしも」の約束をイラストを見せながら知らせ、命を守る大切さを感じられるようにしたりした。

5歳…訓練後に振り返りをし、課題を共有することで、次の訓練に生かせるようにした。

また2月には子ども110番の家があることなど、進学を想定して指導を行った。
全員…「イカのおすし」の約束を理解できるよう、実際に先生が演じて見せながら、みんなでどのような行動をとればよいか考える機会をもった。

・保護者への情報発信…安全だよりの発行を1回、訓練後のホームページでの発信を7回、計8回行った。

安全だよりの発行では、夏休みを安全に過ごせるよう、夏休みで起こりやすい危険について職員が劇をした内容を手紙でも知らせて、親子間で再確認できるようにした。

・安全に関する親子での取組…6回実施

5月、火災による保護者引き渡し訓練を実施した。アプリでの配信を行い、引き取りの仕方を確認し、体制を整えた。アンケートより、避難時の登園通路の危険予知を親子間で考えるきっかけになっている様子が分かり、意識の高まりを感じることができた。

1学期終業式で、夏休みを安全に過ごせるように夏休みで起こりやすい危険について職員が劇をし、視覚的に分かりやすいよう知らせ、意識が高まるようにした。

10月は交通安全、1月は自転車の乗り方について、教材を使用し、親子でクイズ形式でルールを再確認して楽しく学べるようにした。

2学期終業式では、大阪府警の交通安全課の方から信号を渡る際の約束や飛び出しについて指導を受け、親子で交通安全について学ぶことができた。

1月には地震や津波を想定した、親子引き渡し訓練を実施した。アンケートより、ミッションカードがあったことで、親子で災害時の行動を再確認できたり、通園路の危険な場所を確認できたという報告があり、意識を高くもち訓練に臨むことができたという報告があった。

・避難訓練実施後の評価・改善…8回実施。

避難訓練実施後に、毎回反省会を行い、気になったことはすぐ改善し、次回に生かした。計画時には、避難方法を見直し意見を出し合い、より安全に避難できるよう努めた。

支援を必要とする子どもが多く、いざとなると対応に戸惑う様子も見られた。教職員で子どもたちの様子を共有し、個々に合わせた支え方を工夫したり、避難時に配慮できるようにしたりしながら訓練を行うようにした。

- ② ○「おさんは、幼稚園に通うことを楽しみにしていますか」100%で目標を達成した。
 ○「色々な友達に親しんだり友達と仲良く遊んだりするようになりましたか」98%で目標を達成した。
 ○「教職員は子どもたち一人一人に応じた関わりをしていますか」100%で目標を達成した。

・インクルーシブ教育について、教育研修を受ける…7回実施

発達障害基礎講座（基本編）を受講し様々な障がいの特性についての動画を見て学び、発達障害基礎講座（課題別編）では、指導部インクルーシブ教育推進室より講師を招き、発達障がいの理解と行動支援についての学びを深めた。また、特別支援教育研修やインクルーシブ教育研修、特別支援教育コーディネーター研修を受講し、多様な特性理解に基づく指導支援などを学び、保育に生かした。

・個に応じた教材や支援方法を探り活用する…7回実施

様々な特性をもつ子どもたちや、それぞれのクラスの実態に合わせ、様々な工夫を行った。下記に一例を挙げる。

- 保育室を飛び出してしまう子どものためにビニールテープで印をつけて視覚的に活動範囲がわかるようにした。また歌を披露する場などでは、その子どもの個人マークや好きな色のビニールテープで位置を決めることで、落ち着いて活動できるようにした。
- 荷物の始末が難しい子どものために、個別の表示を作成し始末の順番がわかりやすいようにしたり、個の特性に合わせ、活動の始まりと終わりがわかる教材の研究を行い作成し試したりしたことで身に付き、自分から始末をしようとするようになった。
- 音に敏感な子どもが落ち着いて活動できるように、クールダウンできるよう個室の空間をつくるなど、環境の工夫を常に行った。安心して過ごせるようになり、保育室で過ごす時間が増えた。
- 予測できない活動に不安を感じる子どものために、園外保育の行程表や生活発表会の活動の順番を示したものを作成することで活動に見通しをもち安心して取り組むことができた。
- 外国籍の子どもとコミュニケーションをはかるために翻訳機を取り入れてスムーズに意思疎通が図れるようにした。また、外国語の出てくる絵本を活用したり、合奏や劇の題材をどの国でも有名なものにしたたりするなど、活動内容を工夫したことで、互いの国に関心をもち、共に生活を楽しむことができた。

・園内委員会の実施…11回実施

毎月園内委員会を行い、クラスの実態や配慮を要する子どもの様子を職員間で共通理解をした。全教職員で子どもたちを見守る体制をもって保育ができるようにした。

・専門機関や関係機関との連携…5回実施

9月に東住吉支援学校の地域相談・インクルーシブ教育推進室の巡回相談を依頼し、支援を要する子どもの実態把握や支援方法について指導を受けた。個々に応じた支援の仕方について見直し保育に生かすことができた。

8月に療育施設を訪問し、施設での取り組みや様子を聞き、子どもの実態や指導内容を把握できるようにした。言語聴覚士より発声トレーニング法などの言葉に関する具体的な訓練法を聞くことができた。

9月・11月に療育施設指導員と連携し、園での子どもの様子を観察後、今の支援の実態を伝え合った。個に応じた支援方法をアドバイスを受け、保育に生かせるようにした。

次年度への改善点

- ① ・子どもたちが命を守る行動を身に着けるためには家庭との連携を行い、繰り返し伝えていく必要がある。親子で交通安全や防犯等を学ぶ機会をもち、家庭でも共通した指導が行えるようにする。
- ・支援の必要な子どもたちも安全に避難できるように、理解しやすい指導教材の工夫を

行うことと、避難時の子どもの様子について全教職員で共通理解を行い命を守る体制を整える。

- ② ・教員研修を充実させ、特別支援教育に対する知識を深め、保育に生かしていく。
・子どもの実態を常に教職員間で共通理解し、園全体で支援に努める体制を整える。

大阪市立瓜破北幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ①今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は就学前教育カリキュラムを生かして「知」「徳」「体」をバランスよく育んでいますか」「幼稚園は小学校との交流や連携を積極的に行っていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90パーセント以上にする。 ②今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、自然に親しみや関心をもっていますか」「お子さんは、自然を生かした遊びや活動の中で、考えたり表現が豊かになったり知識が増えたりしてきましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。 ③今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊ぶようになりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を95%以上にする。 ④今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、様々な野菜や果物に興味をもち、今までよりも食べるようになっていますか」「保護者の方は、幼稚園での自然体験や食育の取組に参加してよかったと思いますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策3 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進】 就学前教育カリキュラムや幼稚園教育要領を生かした教育活動の取組を実施する。 指標 ・クラスだよりの発行：年10回 ・保護者への取組内容の周知：年10回 ・英語であそぼう：年3回 ・小学校との交流：年4回 ・中学校や高校との交流：年4回	A
取組内容②【施策4 思考力・判断力・表現力の育成】 自然豊かな園庭で、季節に応じた自然を生かす遊びができるような環境を工夫する。 指標 ・園庭の自然を生かした遊びや活動の工夫をする：年3回 ・子どもと共に行う環境整備：年10回 ・親子自然体験活動：年2回	B

取組内容③【施策5 健康教育・食育の推進】 子どもたちが、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊べるように環境を工夫する。 指標 ・体操やダンスの年間計画を作成し、保育に活用する。 ・体を動かす遊びについて話し合い、環境を整える。：年6回	A
取組内容④【施策5 健康教育・食育の推進】 幼児期にふさわしい食生活や、健康な体作りに関心が高まるような指導内容を工夫する。 指標 ・親子での栽培・収穫体験：年2回 ・その他栽培・収穫体験：年5回 ・保健指導：毎月1回 ・保護者への情報発信：学期1回 ・保護者啓発：毎月1回 ・生活習慣カレンダーの実施：年2回	A
中期目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ○「幼稚園は就学前教育カリキュラム等を生かして「知」「徳」「体」をバランスよく育んでいますか」<u>100%で目標を達成した。</u> ○「幼稚園は小学校との交流や連携を積極的に行っていますか」<u>100%で目標を達成した。</u> ・クラスだよりの発行…11回実施 どのような力が育つのか、就学前教育カリキュラムを活用して知・徳・体を明記することで、保護者に伝わりやすいようにした。3月には各クラスのクラスだよりを掲示することで、他クラス子どもの育ちについても保護者が知ることができるようにした。 ・保護者への取り組み内容の周知…12回実施（保育室帰り9回、学級懇談会1回、掲示1回、生活発表会1回） 子どもたちが成長していることや教師が育てたい力などについて、普段の子どもの様子を交えて伝えることで、伝わりやすいようにした。6月には、研究部の研究保育を本園で実施した際に、子どもが遊びの中で学ぶ様子をまとめ、保護者にも掲示して見てもらえるようにした。生活発表会では、各クラスのねらいや育ちについて、演技の合間を使って伝えた。アンケートにも、演技と話をつなげて聞くことができ、育ちが伝わりやすかったという声があった。 ・英語であそぼう…3回実施（6、10、12月に実施。12月には保護者が参観した） 多言語にふれる機会となった。そこで、遊びの中に英語を取り入れ（カラーボールを集める遊びの中で英語で色を知らせるなど）普段の生活の中でも親しめるようにしている。5歳児は外国籍の子どもが在籍していることから、簡単な英語を日常生活に取り入れた。万国博覧会が大阪で実施されたことも重なり、様々な国に関心をもつことができた。2月には生活発表会で、英語で遊ぼうで習った歌をみんなで歌う機会をもった。 ・小学校との交流…6回実施 瓜破北小学校とは7月にプール交流をした。5年生と一緒に遊んでくれたり泳ぎを見せてくれたりしたことで、憧れの気持ちをもったり、小学校のプールで遊ぶ楽しさを味わったりすることができた。隣接していることで、日常的に手を振り合うなど、小学生に親しみをもち、関わろうとする姿が見られるようになった。 瓜破西小学校へは、4、5月に3回遊びに行き、春の自然に触れたり、小学生と触れ合ったりして遊んだ。9月には5歳児が給食交流に行った。コロナ禍以降できていなかった5年生と一緒に給食を食べる体験を再開することができ、5年生の優しさにふれた	

り、給食の美味しさに安心感をもったりすることができた。また12月の環境音楽祭に共に出演し、一緒にステージに立ち歌を歌う経験をした。

交流を通し、小学生に親しみをもち、小学校進学に期待をもつことができた。

- ・ **中学校や高校との交流…8回実施**（11月には中学生との家庭科を通した交流を3回予定していたが、感染症拡大予防のため中止となった。）

中学生の職業体験を1回、交流を12月に3回実施した。一緒に過ごすうちに互いに親しみをもち、触れ合う楽しさを共に感じる姿が見られた。

預かり保育での瓜破西中学校の絵本読み聞かせを2学期から開始し、4回実施した。読み聞かせの日には預かり保育に参加する子どもが増え、とても期待をもっている。

② ○ **「お子さんは、自然に親しみや関心をもっていますか」100%で目標を達成した。**

- **「お子さんは、自然を生かした遊びや活動の中で、考えたり表現が豊かになったり知識が増えたりしてきましたか」100%で目標を達成した。**

子どもたちが季節の移り変わりを感じたり、その季節の自然物を使って遊んだり生き物に触れたりできるよう、発達段階に合わせ様々な工夫を行った。下記に一例を挙げる。

5歳児…園内の自然に関心がもてるよう、みんなで見に行く機会を定期的にもった。春には、いろいろな草花を見つけ、図鑑で調べて、ビオランドの図鑑作りを楽しんだ。その後も季節に合わせて発見を楽しみ、草花や虫について分からないことがあると、自ら図鑑で調べ、分かったことを友達と共有する楽しさを味わうようになった。コンポストには、家庭から果物の皮等を持ってきて、どのように変化をするのかに関心をもち、観察を楽しむことができた。

4歳児…メダカの稚魚やカブトムシの幼虫、ダンゴムシ、カタツムリ等の生き物を飼育し生き物に親しみをもった。飼育する中で学んだことを遊びに取り入れ、生活発表会の劇の中で披露した。また、秋にはドングリで様々な遊びができることを知らせると、コマづくりをしたり、素材を使ってドングリ転がしのコースをつくったりして遊びに取り入れ楽しむことができた。

3歳児…春はみんなでビオランドを探検することで、植物や生き物に興味をもつようになった。また5歳児にダンゴムシを見つけてもらったことが嬉しくてダンゴムシ探しに夢中になった。体験することで知る3歳児の特性を生かし、虫に関心が高まった様子に合わせてお面をつくり、自身が虫になりきって遊ぶことを楽しめるようにした。また、秋には果実を使ってごちそうづくりが楽しめるようにし、収穫時期があることを知ったり、収穫への期待をもったりすることができるようにした。

全園児…田んぼの土づくりを子どもたちと行い、土の感触を楽しみながら田植えに期待をもった。そこへカエルが卵を産み、5歳児が田植えをしようとした際に発見し、卵を守るためにはどうしたらよいかを相談し、卵を守る取組を行った。日々観察できることで、オタマジャクシがカエルに育つまでの過程に関心をもつことができた。

秋にはコンポストづくりをした。草が土に返っていく変化を目の当たりにし、変化の過程に関心をもったり、土にかえっていく不思議さを感じたりした。

- ・ **子どもと共に行う環境整備…4回実施**

- 5歳児が土づくりを行い、夏野菜や夏の植物を植えるようにした。またボランティア

アの方が草抜きをしている姿を見て子どもたちも主体的に草抜きをする姿があった。

- 今後コンポストづくりを計画している。その前段階としてクリーンキャンペーンで抜いた雑草を畑の際に置き、土にかえっていく経過を観察できるようにした。さらに雑草の中にペットボトルやミカンの皮を入れ、それぞれがどのように変化していくか、楽しみにしながら観察している。
- チョウのレストランでは、春に向け、蝶が卵を産めるようにキャベツの種を蒔き育てている。この春も昨年植えたキャベツで青虫の観察ができたため、子どもたちは期待をもっている。
- 来年度の収穫を目指し、畑を整えたりイチゴやタマネギ、ジャガイモを植えたりした。成長に期待をもって水やりするなど、自ら世話をし大切にしている。

・親子自然体験活動…3回実施

イチゴの苗植えを行った。植える前にはイチゴに関するクイズを行い、親子で関心がもてるようにした。5歳児は、自身が入園した春に収穫したイチゴは在園児が植えてくれていたことを伝え、新入園児のために植えた。

12月に稲刈りをした。その後子どもたちが脱穀もしたが、今年は実りが少なく、残念ながら食べることは難しかった。

12月にレンゲの種撒きをした。たくさん発芽し、開花を楽しみにしている。

③ ○「お子さんは、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊ぶようになりましたか」100%で目標を達成した。

- ・体操やダンスの年間計画を作成し、保育に活用する…16曲実施（サンサン体操・サクランボのマンボ・カエルのたいそう、エビカニクス、げんきつき体操、手のひらを太陽に、どんぐり体操、ラーメン体操、おにのパンツ、おでんぐつつぐつ体操）

職員間で連携をとり、異年齢交流を年度当初から継続して行っている。5歳児が3歳児を積極的に誘い一緒に踊ることを楽しむ姿が見られた。全学年で取り組むことで、それ以外にも、季節の行事に取り入れたり、集会以外の日頃の遊びにもすぐに取り入れることができた。

また各クラスでも積極的にダンスや体操を取り入れ、発達に応じた内容で音楽に合わせて体を動かすことを楽しむことができた。

- ・体を動かす遊びについて話し合い、環境を整える…6回実施

4月当初は新入園児が安心して遊ぶことができるよう、三輪車やスケーターのコースや簡単なサーキット遊びなどを、保育室からすぐに見える位置に用意した。また季節に応じて花やイチゴのトンネルをつくるなどし、子どもたちが体を動かしたくなるような環境に整えた。

5月末には全身を使って遊べるよう、ホールには土粘土や巧技台、園庭にはテントで日陰を用意し、ビオランドでは自然物を使った遊びなどができるようにした。子どもの遊ぶ様子を振り返って環境の再構築を行うことで、意欲的に遊ぶ姿が見られた。

夏にはプール遊びをし、年齢や発達に応じた内容で存分に水に親しんで遊ぶことができた。また、「水遊びデー」を設け、水を使って全身で遊んだり、水の感触や泥の感触を味わったりできるように環境を整えた。普段から異年齢で関わって遊んでいるため、自然と異学年で一緒に水鉄砲や色水遊びを楽しむ姿が見られた。

9月は運動遊具を充実させ、体を動かす遊びや挑戦するあそび（短縄、長縄、フープ

一本歯下駄等)が十分にできるようにした。運動会後は他クラスの遊びを共に楽しめる環境を整え、5歳児がリレーやダンスを3、4歳児に教えながら遊ぶ姿が見られた。

12月は異年齢で転がしドッジボールを行った。どの年齢の子どもも関心をもち、意欲的に遊ぶ姿が見られた。また、毎朝体操やマラソン活動を行い、寒さに負けない体づくりを行った。

3学期は、挑戦できる遊具を増やし(一輪車、竹馬、くるりんスキップ等)意欲的に体を動かして遊べるようにした。5歳児の挑戦する姿を見て刺激を受け、3、4歳児も様々な遊びに関心をもちようになった。5歳児がお別れ会で4歳児に手作りのくるりんスキップを渡したことで、4歳児は毎日挑戦している。

④ ○「お子さんは、様々な野菜や果物に興味をもち、今までよりも食べるようになって
いますか」96%で目標を達成した。

○「保護者の方は、幼稚園での自然体験や食育の取組に参加してよかったと思いますか」
98%で目標を達成した。

・親子での栽培・収穫体験…3回実施

親子で、好きな夏野菜(ミニトマト・キュウリ・ナス)の栽培や収穫を行った。
全園児で土づくりをし、5歳児が田植えを行った。また、親子で稲刈りや冬野菜(サン
チュエ、茎ブロッコリー、水菜)の栽培を行った。

・その他栽培・収穫体験…11回実施

5月にサクランボ、イチゴ、玉ねぎ、スナップエンドウ、7月に夏野菜、ジャガイモの
収穫を行った。10月にさつまいも、落花生、11月にカキ、ミカン、12月にキンカン
の栽培を行った。

・保健指導…毎月1回、健康診断前に実施

	年少	年中	年長
4月	健康診断の受け方	手洗い、健康診断の受け方	手洗い
5月	健康診断の受け方	和式トイレ、健康診断の受け方	トイレマナー、健康診断の受け方
6月	プールの約束 歯磨き	大切な身体	プライベートパーツ
7月	手洗い	熱中症を防ごう	熱中症
9月	ガラガラうがい	睡眠	けがの手当て
10月	言葉の魔法	ふわふわ言葉・ちくちく言葉	どんな気持ちがあるのかな
11月	鼻水	咳エチケット	手洗いチェック
12月	3色栄養軍	3色栄養軍	3色栄養軍
1月	良いうんち おし りの拭き方	いろいろなうんち	朝のしたく
2月	良い姿勢	強い骨	骨

毎月、各年齢ごとに教材や指導方法を変え、発達段階に合わせた指導を行った。下記に一部を挙げる。

○ 健康診断前の指導では、3歳児は健康診断の手順について絵カードや実際の器具を用いて伝え、安心して健康診断を受けることができるようにした。4・5歳児では、体の名前や働きを確認し、健康診断の大切さを知らせ、意欲を高めた。

- 手洗い指導では、3歳児は「あわあわてあらいのうた」の6つのポーズを掲示を用いて確認し、その後実際に手洗いを行った。4・5歳児では、どうして手を洗うのかについてイラストを使って意味を知らせることで、手洗いの意欲を高めた。
- プールの約束では、「水着で隠れる部分」は自分だけの大切なところであると知らせ、プールの着替えで気をつけることを知らせた。4・5歳児では、プライベートパーツについて知らせ、「見るのも触るのも自分だけ」というプライベートパーツの約束を知らせた。自分や友達を大切に思うきっかけとなるように繰り返し伝えている。
- 言葉の指導では、「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」にはどんな言葉があるのかを知らせた。5歳児ではいやかな気持ちの伝え方について伝えた。言葉の選び方、思いを伝える力を身につけられるように繰り返し伝えている。
- 3色栄養群では、食べ物には、赤（からだをつくる）、黄（エネルギーになる）、緑（からだの調子を整える）3つの仕事があることを知らせた。また、指導の後に弁当給食の時間を利用した栄養の掲示を行った。

・保護者への情報発信…3回実施

6月にむし歯や仕上げ磨きについて、保護者向けに講話を行った。その後学校歯科医師の先生の指導の下、歯垢染色を行った。最後に親子で取り組む歯のクイズを実施し、歯について楽しく学べるようにした。1学期終業式では、1学期の保健指導や救急処置について、2学期末には「食」の大切さについて資料を作成し、保護者に伝えた。

・保護者啓発…毎月2回実施

月に1回ほけんだよりを発行し、保健指導の内容を保護者と共有したり、その時期の健康について必要なことを情報提供したりした。また、ホームページで保健指導の内容や様子について毎月発信し、指導内容の啓発を行った。

・生活習慣カレンダーの実施…2回実施

夏休みに栄養、歯磨き、仕上げ磨き、冬休みには早寝早起き、栄養に関するカレンダーに取り組めるようにした。1学期終業式の際に健康カレンダーの意義や生活習慣の大切さを保護者に伝えた。健康カレンダーの項目「1日3種類食べましたか」の達成率は夏休み82%、冬休み83%であった。

次年度への改善点

- ① ・教師が保育を語る力をつけ、保護者への啓発に努める。
・今後も様々な人と交流する機会をもち、人と関わる楽しさや温かさを感じられるようにする
- ② ・ビオランドの環境を生かし、季節に合わせて自然を取り入れて遊ぶことができるよう環境を整えていく。コンポスト活動を継続し、今後の変化に関心がもてるようにしていく。
- ③ ・今後も教職員間で連携し、ダンスや体操、発達段階に合わせた環境の工夫を行い、子どもたちが主体的にのびのびと体を動かす遊びにと取り組めるようにする。
- ④ ・今後も継続して保健指導や食育を行い、食に興味や関心をもてるようにしていく。

大阪市立瓜破北幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 ①今年度末の保護者アンケート調査で、「教員は、環境や教材を工夫し幼児期にふさわしい教育活動を行えていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上にする。 ②今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者、地域の人が親しんだり楽しんだりする交流や取組を行なっていますか」「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携に力を入れていると思いますか」の項目に対して、「そう思う」と答える割合をそれぞれ初年度は70パーセント以上、次年度以降は「そう思う」と答える割合を、それぞれ75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策7 教員の資質向上・人材の確保】 園内研修や教職員研修を計画的に行い、教員の資質向上を図る。 指標 ・園内研究保育や園内研修を実施する：年5回 ・全教員で教職員研修を受講する：年7回以上 ・教育実習や学生ボランティアの受け入れ：年2人	A
取組内容②【施策3 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 開かれた幼稚園づくりを目指し、幼稚園に親しみがもてるような取り組みを実施する。 指標 ・未就園児活動を実施する：年15回以上 ・地域との交流：年2回 ・みんなで南園庭をつくろう活動：年数回	A

中期目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① ○「教員は、環境や教材を工夫し幼児期にふさわしい教育活動を行えていますか」 98%で目標を達成した。 ・研究保育の実施…3回 園内研修の実施…4回実施 研究部会の研究保育を受け、6月に実施した。1週間前に指導要請を受け学んだり、環境設定や働きかけについて何度も教員間で話し合ったりして研究保育に臨んだ。当日は、保育を見た他園の教諭と感想や意見を交わすことができ、学びを深めることができた。また、保健指導の園内研究会も1回実施した。 園内研修では、子どものアレルギーに関しての研修を行い、いざという時の対応を全教員ができるように体制を整えた。また、8月と1月に大阪府の環境教育研修会を本園で行い、8月には園児が研修参加者にビオランドを案内したり本園の取組を掲示したりし、1月には事例の発表を行った。大阪府下の様々な幼児教育に携わる教師や保育士、大学教授や大学生などとともに学ぶことができた。 また、幼稚園には担任教諭だけでなく、養護教諭や事業担当主事など、様々な職種の教

職員がいる。互いの立場から見る保育を理解し合うことで連携を深められるよう、12月に園内研修会を行った。

・全教員で教職員研修を受講する…14回実施

オンライン研修を活用し、特別支援教育研修4回、人権教育研修1回、防災研修2回を全教員が視聴し学んだ。また研究会の総会や研究部会に7回参加し、講演会や本園や他園の研究保育を見て意見を交わしながら学んだ。

・教育実習や学生ボランティアの受け入れ…5人

教育実習を5名、学生ボランティアを1名受け入れ、後進の育成に努めている。また、昨年学生ボランティアに来ていた2名が大阪市の採用試験に合格したという知らせを受けた。ボランティアを経験したことで教師になりたいという夢を膨らませ、同じ職場を目指されたことは、本園教員にとっても大変嬉しいことである。

② ○「幼稚園は、子どもや保護者、地域の人が親しんだり楽しんだりする交流や取組を行えていますか」98%で目標を達成した。

○「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携に力を入れていると思いますか」

98%で目標を達成した。

・未就園児活動の実施…25回実施。(1学期6回、夏休み6回、2学期8回、3学期5回)

なかよしデーでは、園庭の遊具で遊んだり、夏は水遊びをしたり、製作を楽しめるようにしたりと、回や季節毎に内容を工夫して実施した。ふれあい動物村やキッズシアターなどの園行事にも参加できるようにし、園児と共に楽しむことで園生活にふれることができるようにした。夏休みには未就園児が楽しめる内容を検討しプール開放を行った。2学期は運動会やえほん展、大教大コンサートに招待したり、赤組と製作遊びをして作品展に展示できるようにしたりするなど、毎回内容の工夫を行いながら実施した。3学期は寒い中でも体を動かして遊ぶことを楽しめるように、凧作りをしたり、マラソン遊びや体操をしたりして園児の活動を一緒に楽しめるようにした。

・地域との交流…2回実施。

5歳児が地域のおじいさん、おばあさんが集まる集会所に行き、歌を披露したり、こまやけん玉と一緒に遊んだりした。

平野区の社会福祉協議会からの紹介で昨年度から草抜きや水やりのボランティアに来てくださっている方と一緒に草抜きをしたり交流をしたりした。ボランティアの取組について区長より表彰を受けられた際には、子どもと保護者も表彰式に出席し、お礼の気持ちを伝えた。

・みんなで南園庭をつくろう活動…草抜きは定期的に実施。

1学期から草抜きや環境整備を定期的に行った。この時間が保護者間のコミュニケーションや子どもたちと触れ合う時間になり、楽しく活動することができた。池の清掃も行い、子どもたちも藻を取ってメダカやカエル、ヤゴなどが棲みやすい環境を整えていけるようにした。

ビオランド工務部には、春は子どもの家を、2学期には工務部の方々に平均台を作って設置をしていただいた。ビオランドで落ち着いて遊ぶ場ができ、子どもたちがより自然にふれて遊ぶ機会が増えた。

今年度は、「学校・園庭ビオトープ賞優秀賞」「おおさか環境賞大賞」、みんなで南園庭をつくろう会が「おおさか環境賞協働賞」を受賞することができた。

次年度への改善点

- ① 研修を受けたり、教職員間で学び合う機会をもったりして資質向上に努め、学んだ内容を保育に活用していく。
- ② ホームページや区の掲示板等を活用して活動の啓発を行い、地域の方が幼稚園に親しみをもち関わろうとしたり、保護者が保育内容や南園庭をつくろう会の活動を知り、参加したいと思ったりできるよう働きかけていく。

Ⅰ 総括についての評価

内容については、妥当である。

Ⅱ 年度末目標ごとの評価

年度末目標：【安全・安心な教育の推進】

- ① 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めていますか」「保護者の方はお子さんと一緒に避難訓練や安全指導などに参加して災害時の行動や安全な生活への意識が高まりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。
- ② 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、幼稚園に通うことを楽しみにしていますか」「色々な友達に親しんだり友達と仲良く遊んだりするようになりましたか」「教職員は子どもたち一人一人に応じた関わりをしていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ85%以上、90%以上にする。
- ① 2項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ96%、93%で目標を達成した。
- ② 3項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ100%、98%、100%で目標を達成した。

年度末目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は就学前教育カリキュラム等を生かして「知」「徳」「体」をバランスよく育てていますか」「幼稚園は小学校との交流や連携を積極的に行っていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。
- ② 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、自然に親しみや関心をもっていますか」「お子さんは、自然を生かした遊びや活動の中で、考えたり表現が豊かになったり知識が増えたりしてきましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ95%以上、90%以上にする。
- ③ 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、体を動かす活動に興味をもち、楽しく体を動かして遊ぶようになりましたか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を初年度は90%以上、次年度以降は「そう思う」と答える割合を、90%以上にする。
- ④ 今年度末の保護者アンケート調査で、「お子さんは、様々な野菜や果物に興味をもち、今までよりも食べるようになっていきますか」「保護者の方は、幼稚園での自然体験や食育の取組に参加してよかったと思いますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ80%以上、90%以上にする。

- ① 2項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ100%、100%で目標を達成した。
- ② 2項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ100%、100%で目標を達成した。
- ③ 年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、100%で目標を達成した。
- ④ 2項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ96%、98%で目標を達成した。

年度末目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ① 今年度末の保護者アンケート調査で、「教員は、環境や教材を工夫し幼児期にふさわしい教育活動を行えていますか」の項目に対して、「そう思う（ややそう思う）」と答える割合を、それぞれ90%以上にする。
- ② 今年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者、地域の方が親しんだり楽しんだりする交流や取組を行なえていますか」「幼稚園は家庭・地域・他校種との連携に力を入れていると思いますか」の項目に対して、「そう思う」と答える割合をそれぞれ初年度は70パーセント以上、次年度以降は「そう思う」と答える割合を、75%以上にする。
- ① 年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、98%で目標を達成した。
- ② 2項目の年度末保護者アンケート結果の「そう思う」の割合は、それぞれ98%、98%で目標を達成した。

3 今後の学校運営についての意見

- ・達成状況をBにするためには大変な努力が必要である。目標が低いわけではないのに、分析をしっかりとした上で評価をAとできるのはすごいことである。保護者アンケートで肯定的な回答が100%であるところにも驚いた。年々向上しているところも評価できる。来年度以降も今のまま保育に励んでほしい。
 - ・常に向上心をもって教職員研修を行っている。今後も、上を目指して努力し続けて欲しい。
 - ・様々な取組の中で、保護者の方や地域の方と連携ができています。地域の方も幼稚園との交流を楽しみにしています。今後も交流を進めてほしい。また幼稚園にも地域の方が遊びに来てほしい。
 - ・自然豊かな園庭は本園の魅力である。自然の中でのびのびと過ごせ学べることは幼児期に必要だと思う。
- 素晴らしい幼稚園があることをもっとたくさんの人に知ってほしいと願っている。

